

地域の人々の神仏を敬う心

伊佐具神社の境内社として、愛宕神社・八幡宮・天満宮・金刀比羅神社や白龍稻荷神社（もと真言宗福円山浄徳寺のお堂、観音様）が配祀され、神仏習合の名残を残します。

さて、時は慶応4年、新政府はすぐそこに迫った明治に備え神仏判然令を発しました。発令に伴い、排仏棄釈（仏を破壊し釈迦の教えを廃す）が全国各地で行われたのです。住吉大社内神宮寺の大伽藍や興福寺の食堂は破壊され、伊勢国(三重)では、100ヶ所以上が廃寺となりました。伊佐具神社においては、観音様には新しくお堂を建立し、お稲荷さんの社としました。きっと地域の人々は、神仏を厚く敬う心をもって、何とか観音様をお守りしようとした上で、このように穏便な分離に相成ったのでしょう。



正面



拝殿



白龍稻荷神社

僅か5年で消失した中大兄皇子の近江大津京、信長が焼払った比叡山、明智光秀の本能寺の変など…時の権力者は新たな政権を担うために、諸人諸物を滅し、新たな歴史を築こうとしてきました。1868年の神仏判然令も新政府発足に基づくもので、多数の寺院や仏像が破壊されました。このような状況においても、上坂部の人々は知恵や労力、財を出し合って観音様を巧みに匿い、難事を乗り切りました。地域の力、民の知恵によって守り抜き、綿々と受け継いでいく…白龍稻荷の観音様には、村人の優しさや熱く強い想いが込められているのです。

「白菊黄菊咲きそろふ あふれる香り優しさを 心にこめて学びます」…校歌や校章にもその想いが反映されているのでしょうか。歴史を知り 歴史に学ぶ…身近な地域史にも素晴らしい発見や新たな気づきがあるかも知れませんね。

参考資料 「Wikipedia:伊佐具神社」「尼崎市神社あんない」